しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

36

困っている人を助けたい

必要なサービスとは

若杉福祉タクシー
HAKATA TRIP
志免町商工会　商工振興委員

はらが
原賀 さちこ

旅行の添乗員として働き、出産を機に退職。志免町に移住し11年目。子育て中に、以前の職場から声がかかり、学校の送迎バスの添乗員として働き始める。
日々、支援が必要なお子さんと接し、保護者の大変さを目の当たりにするうちに必要なサービスについて考え「福祉タクシー」を自分で運営したいと思うようになった。国土交通省の支援制度を活用して普通自動車二種免許を取得。
2024年4月より、若杉福祉タクシーとして福祉輸送限定で起業した。

学校の送迎バスに添乗し感じた保護者の大変さ

もともと旅行の添乗員をしていましたが、出産を機に退職しました。21年ほど前ですが、その頃は妊娠、出産を機に退職する風潮が強く、自分も辞めてしまいました。子育てをしていて、退職から15年ほどたったころ、働いていた当時の上司から「バスの添乗員をしていた経験を活かして、学校のバスに添乗しないか」という仕事のお話をいただきました。子育てでまだまだ忙しい時期でしたが、一番下の子が小学2年生になり、働き始めても大丈夫かなと思い、週1日であればとお引き受けしました。

学校のバスは、地域をまわって子どもたちを学校まで送迎します。朝の7時には出発し、8時45分ごろ学校に到着するように運行しています。学校に通う子どもの送迎は母親が圧倒的に多いです。子どもが体調を崩すことも頻繁で、送迎してすぐ学校から呼び出され、病院へ連れていくなど、自分が体調を崩すと子どもを看れる人がいなくて困っている話を聞いて、支援が必要な子どもたちの保護者の大変さを知りました。

手助けできないか考える日々 女性だからこそ頼られる職業

子どもたちはみんなかわいいです。送迎の時には大きくなった子をいつも抱っこしたり、体調の変化を見逃さないよう常に気が抜けない保護者の姿を見ていました。色々な困りごとを目の当たりにして、自分自身が忙しく、すぐに何かできるという状況ではなかったですが、お母さんたちのためにどんなことができるのか、添乗員の仕事を通じて普段の子どもたちの様子も知っている私が送迎したら手助けになるのではないか、そのためには福祉タクシー事業が良いのではないかと考え始めました。「あなたなら、安心して子どもを任せられる。子どもが懐いていて、普段の様子を知っているから、変化に気づいてもらえる安心感がある」と言われたことも、背中を押されるきっかけになりました。

さらにある保護者から、女性だから子ども（特に女の子）の体調の変化なども伝えやすいという意見も聞いて、女性タクシードライバーの需要が高いことにも応えたいと感じました。

国の助成を受け二種免許を取得 2024年4月開業へ

福祉タクシー事業をやりたいとは思いながらも、事業としては採算が合わないという話があり、また運転資金に関する審査もあるため、ずっと悩んでいましたが、厚生労働省による就職氷河期世代を対象とした自動車二種免許取得の助成制度があることを知り、その制度を活用して免許を取得しました。困っている人のために、少しでも早い開業を目指してさまざまな手続きを進め、2024年4月に福祉輸送限定の「若杉福祉タクシー」を開業しました。

福祉タクシーの料金は、距離制運賃ではなく30分毎の貸切運賃(国が定める下限3470円）を採用して運営しています。毎日利用したいがやはり高いというお声もいただいています。

	福祉タクシー	介護タクシー
目的	用途に関わらず利用できる	日常、社会生活に必要な行為に伴う外出のみ
対象者	公共交通機関での移動が困難な方	要介護1～5の方
費用	高い（介護保険適用外）	安い（介護保険適用）
家族の同乗	できる	できない

▲ 福祉タクシーと介護タクシーの違い
（原賀さんのお話をもとに支援室で作成）

起業してみて気づいたこと ひとりでは限界がある

起業してすぐは、すでに知り合いであったお子さんが利用してくださっていました。思った通り、タクシーに乗っていても顔見知りである私を子どもたちが受け入れてくれて、保護者の安心に繋がっています。最近では、施設に入所されている方や持病のある方からのご依頼が増えました。女性ドライバーが来てよかったと言われる度に、需要の高さを感じますし、「あなたのおかげで外出が増えた」という方もいます。

福祉タクシーは、介護タクシーと違い要介護認定の有無に関わらず、移動先に合わせて自由に利用できます。私は介護職員初任者研修を受けているため、乗降の介助もできます。利用者様は一人ひとり状態が違います。言葉が出ない場合は、保護者や施設の方と、お話が可能な方については、ご本人や主治医、ケアマネージャーなどと、料金や行程、お薬のこと、乗降の仕方や発作時の対応などを細かく打合せしています。1台で運行しているために予約が重複し、配車できない事態が続くと心苦しく、一人での運営を難しく思ってます。信頼できる看護師さんと業務委託契約を結んで運行することもあります。輸送以外の部分で頼られたときには、町内の専門職の方や有志の方と協力できそうです。

生活の質の向上のため、これからの福祉を町全体で考える

私の福祉タクシーの目的は、利用者様の生活の質の向上に貢献することです。支援が必要な子やその保護者の生活の質の向上を助けたいですし、高齢者の方には、施設に入所していても、外出をあきらめず、生活を楽しんでほしいです。

現在、取得した資格を組み合わせて活用し、事業を展開しています。制度や仕組みがあってもうまく使えない人がいて、そこに需要があると感じます。福祉タクシーは高いけれど、これさえ払えば頼れるというお守りだと思ってほしいです。最近では「町の便利屋さん」のようなイメージを持っています。

細かい打合せをした後、専門職や町のお店、ボランティアさんなどを繋いで新しいサービスを作り、この人に頼んだら大丈夫だと思ってもらえる安心できる関係性が志免町全体に広がって、町の活性化にも繋がると良いなと思います。志免町商工会の振興委員としても、志免町の事業者さんを活性化したいですし、身近な人たちと一緒に生活の質の向上と、町の活性化が両方できたら良いですね。

取材を終えて

原賀さんは社会課題解決の手段として起業を選びました。資格や経験を活かして新たなサービスを創出しています。決してひとりの頑張りに頼るだけではなく、応援できる地域社会であると良いですね。

■発行日：2024（令和6）年10月25日　■制作・編集：志免町まちづくり支援室
〒811-2244　福岡県糟屋郡志免町志免中央一丁目3番2号（生涯学習1号館内）